



新会津若松市のまちづくりを進めていく上での基本理念、理想とする姿、基本目標を以下のように整理します。

## 第1節 まちづくりの基本理念

地方分権が進展するなかで、地域社会の課題や市民のニーズも多様化、複雑化しており、地方自治体においては、自らの決定と責任でまちづくりを進めることが、これまで以上に求められています。そのため、市民が自発的、主体的にまちづくりに参画するという「住民自治」の原点に立ち返り、市民と行政が互いに協力して自治を担っていく必要があります。

新会津若松市は、北会津村及び河東町との合併を好機ととらえ、地域の特性をいかし課題を克服しながら、市民と行政とが幅広い分野でまちづくりの良きパートナーとして連携して取り組む、「協働によるまちづくり」を一層推進し、活気と活力があふれる元気なまちを創造していくために、まちづくりの基本理念を「市民とともに築く元気なまち」とします。

**まちづくりの基本理念：市民とともに築く元気なまち**

## 第2節 理想とする姿(将来像)

新会津若松市は、北会津村と河東町との合併により市域が広がり、より一層豊かな自然を包含することとなりました。この豊かな自然とともに、これまで多くの先人によって培われてきた歴史や文化など、他にはない貴重な地域の資源がさらに個性を発揮するよう、守り、育てていくことが必要です。

そして、これらの会津の良さをいかしながら、豊かで活気があるまち、「人」と「まち」がいきいきと輝き満足度が高く魅力的なまち、すなわち誇りと輝きに満ちたまちをつくりたいと考えます。

さらに、市民にとっても、本市を訪れる人にとっても、住んでみたい、住んでよかった、いつまでも住み続けたいと心から思えるような、安全・安心でやすらぎのある「ふるさと会津」を創造することを理想とします。

このため、「歴史・自然・文化が薫る 誇りと輝きに満ちたふるさと」を理想とする姿(=将来像)とします。

**理想とする姿(将来像)：  
歴史・自然・文化が薫る 誇りと輝きに満ちたふるさと**

## 第3節 まちづくりの基本目標

これからの10年間は、合併後の新市としての一体化を進め、会津地方の中核都市として地域をけん引し、将来にわたって持続的発展が可能な、新市の基盤づくりを進める時期と位置づけます。

そのためには、本市を担う人材の育成・確保を図りながら、市民と行政がともに力を合わせてまちづくりを進めていくことはもちろん、合併前の会津若松市、北会津村、河東町のすべての人々がともに手を携えて新市を築き上げていくことが求められています。

そして、都市景観、自然、地場産品、風土、伝統といった、会津の良さ、会津らしさを再び見つめ直し、守り、育み、磨き上げながら、大切に後世に伝えていかなければなりません。

また、少子高齢化や人口減少が進行していますが、交流人口の増加や地域経済の活性化などによって、まちに活気と賑わいを創出していくことが必要です。

このため、「歴史・自然・文化が薫る 誇りと輝きに満ちたふるさと」という理想とする姿としてのまちの将来像に到達するための今後10年間に取り組むべき目標として、新市建設計画の基本目標である「会津ブランドをいかしたまちづくり」を発展的に継承し、次のような基本目標を定めます。

**10年間の基本目標：  
ともに育む 会津ブランドをいかした 活力あるまち**

『会津ブランド』とは、「会津ならではの誇れるもの」であり、「他地域に通用するもの」を意味します。

それは、漆器や清酒などの特産品ばかりではなく、「会津」という地名、実直にして一途な生きざまや、信念を貫き通すひたむきな倫理観もまたその対象であり、新旧、有形無形を問わず、あらゆる分野において、「会津らしさ」にこだわった価値あるものが『会津ブランド』です。

この『会津ブランド』を最大限にいかしながら、皆が手を取り合って、元気で力強く自立したまちを築いていくことを、10年間に取り組むべき基本目標とするものです。